８月定例教育委員会会議録

開催年月日	令和８年８月２１日（金）
開催日時	午後３時００分
開催場所	市役所別館３階大会議室
出席委員	教育長　江嶋　久典　職務代理者　佐々木　美徳 委員　木下　靖郎　委員　古田　嘉寿美 委員　山崎　清男
出席参与	教育次長　衣笠　雄司　教育総務課長　渡辺　寛幸 学校教育課長　阿部　一徳　社会教育課長　伊東　寿憲 博物館長　今田　秀樹　淡窓図書館長　矢幡　明美
書記	教育総務課　総務企画係　主幹(総括)　井上　修吉
附議議案	議案第３０号　令和８年度日田市一般会計補正予算教育費について 議案第３１号　日田市大山文化センター運営委員会委員の委嘱について 議案第３２号　日田市立博物館協議会委員の任命について 報告第１２号　令和８年度全国学力・学習状況調査結果について 報告第１３号　令和８年度大分県学力定着状況調査結果について 報告第１４号　日田市立淡窓図書館窓口業務等委託業者の選定について

教　育　長	ただ今から８月定例教育委員会を開催いたします。 初めに、７月定例教育委員会の議事録の確認でございますが、変更はありませんか。（「はい」と呼ぶ者あり） ご了解いただきましたら、本会議終了後に署名をお願いいたします。 続きまして、教育長の一般報告につきましては、お手元に配布しております資料により、報告とさせていただきます。 それでは議事に入りたいと思います。 議案第３０号について説明をお願いします。
教育総務課長	議案第３０号　令和８年度日田市一般会計補正予算教育費についてでございます。 議案集の１ページをお願いいたします。 市議会の９月定例会におきまして補正予算を要求するもので、教育費の予算総額４６億3,４７１万6,０００円に、教育委員会として、7,０７１万円の増額補正を行うものでございます。 詳細につきましては、別冊１の資料によりまして、事業ごとの概要について、各担当課からご説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。
学校教育課長	学校教育課でございます。 別冊１の１ページをお願いいたします。ナンバー１、複式学級解消教員配置事業でございます。 本事業は、大分県における学級編制及び教職員配当基準において、複式学級となる学校に市費雇用教員を配置することにより、児童一人一人の発達段階に応じたきめ細やかな指導を図るものです。 今回の補正では、令和８年度の当初配置予定人数が４校６名でありましたが、年度末に児童の転出により児童数が変動し、５校７名となったため、教員配置に係る経費について増額補正をお願いするものでございます。 今回の増員１人分は６時間の勤務となります。補正の内訳としましては、報酬、職員手当等で４９３万円の増額です。 財源につきましてはすべて一般財源でございます。
社会教育課長	続きまして、社会教育課でございます。 資料２ページのナンバー２、地区公民館管理費でございます。 天瀬公民館五馬分館の大集会室の空調機が経年劣化により故障し、修繕対応が困難なため、空調機の更新が必要となりましたこ

	とから、増額補正をお願いするものでございます。 事業スケジュールとしましては、本年も昨年と同様に高温傾向が続いておりましたので、利用者の熱中症リスクが高い状況にあることから、予算の流用により対応させていただいておりまして、今週の火曜日に設置は完了しているところでございます。 補正額は１９８万円で財源内訳としましては地方債で１８０万円、一般財源は１８万円でございます。 次に４ページをお願いいたします。 ナンバー３、旧公民館施設解体事業でございます。 説明資料は５ページとなります。 旧天瀬公民館につきましては、令和７年７月より解体工事を進めてまいりましたが、体育館部分の土間コンクリートの下から新たにアスベストが検出されました。 本工事は、令和６年度及び令和７年度の繰越予算にて実施しておりましたが、現予算及び年度内での撤去が困難であることから、当該部分を残した状態で、一度工事を完了しているものでございます。 下段の配置等の写真に示しております赤枠で囲んだ部分が該当箇所でございます。この土間コンクリート及びアスベストを撤去するための、工事費は７,９７５万円、工期しては令和８年１１月から令和９年６月までを予定しているところでございます。 資料６ページにアスベストの検出状況及び現況の写真を添付しております。 資料４ページにお戻りください。これに伴いまして、令和８年度分につきましては、工事費としまして６,３８０万円の増額補正をお願いするものでございます。 財源につきましては、地方債６,０６０万円、一般財源３２０万円でございます。 最後に資料の７ページをお願いいたします。継続費に関する調書になります。令和８年度及び令和９年度の２ヵ年で計上させていただくことから、継続費を設定させていただくものでございます。 最後に、７ページ「継続費に関する調書」をお願いします。令和８年度及び令和９年度の２ヵ年の継続費を設定させていただき、令和９年度は１,５９５万円、地方債１,５１０万円、一般財源８５万円、総額としましては、工事費７,９７５万円、地方債７,５７０万円、一般財源４０５万円を計上させていただくものでございます。

教　育　長	ただ今説明のありました議案第３０号につきまして、ご質疑等はございませんでしょうか。
山　崎　委　員	社会教育課の補正予算についてお尋ねします。 このような工事を補正予算で行おうとするのですが、これは、日田市の財政を圧迫しないのでしょうか。
社会教育課長	多少はあるかと思います。今回は、財源の大半が地方債という借り上げになりますが、その借り入れの４０％に対して交付税措置があります。よって、市が全額を負担するわけではありませんので、多少は負担が軽減されるため事業を実施していくものです。
教育総務課長	工事関係の事業はかなり費用がかかるものですが、補助金や地方債などを使い、バランスを保ちながら財政を運営しています。日田市の財政が赤字になったり、苦しくならないように調整しながらやっていますので、そこは大丈夫だと思います。
木　下　委　員	複式学級解消教員配置事業について、教員が増員となりますが、元々配置される６人分の予算に増額すれば補正後の額がもっと大きくなるはずですが、どのような仕組みになっているのでしょうか。
教　育　次　長	当初予算で計上している６人の教員は、フルタイム勤務のため、予算の項目上は給料となります。今回増員する教員は短時間勤務となり、予算の項目上は報酬となります。そのため、今回の報酬はゼロからの増額となりますので、そのような表記となっています。なお、補正内訳の表記には、今回増員する教員１人分の報酬の増額しか明記しておりませんが、実際の予算はその他の項目もあります。
佐々木委員	複式学級解消の教員の方は、一般職の教員なのか、特別な教員なのでしょうか。
学校教育課長	この事業で雇用する教員は、その多くは元教職員です。ただし、現在は、退職年齢が延長されており、教職員経験者だけでは不足するため、大学を卒業してまだ正規の教員にはなっていない方も臨時講師のような形で雇用しています。 いわゆる教員免許は持っているけれども、正規の教員には合格

	していない方を臨時講師という形で配置しております。
木　下　委　員	旧公民館施設解体事業について、アスベストを除去する工事の費用が破格であることに驚いておりますが、跡地の利用についてはすでに決まっているのでしょうか。
社会教育課長	現在、天ヶ瀬郵便局の移転先として、郵便局から打診がありましたが、まだ内部で調整中でございます。
教　育　次　長	元々この土地は、天瀬地区が水害を受けた際の復興のための用途として、地元からのご意見を参考にして活用する土地になっています。 そこで、災害の関係で、天ヶ瀬郵便局の移転先としても要望を受けておりまして、現在、地域の方々と郵便局とで協議しております。 具体的に言いますと、買い物をする場所等が欲しいという要望もありますので、郵便局の移転だけでなく、そのような話も今後されていくと思います。そのようなことからも、アスベストを撤去せずにそのままにしておくことは、今後、色々な活用策を検討する上では好ましくないため、高額な費用が見込まれますが撤去工事を行っていくものです。
木　下　委　員	郵便局については、日本郵便に売却をするのでしょうか、それとも、局舎を市で建設して、テナントとして入っていただくようにするのでしょうか。
社会教育課長	現段階では、土地を貸し出して、建物を郵便局が建てることで協議を進めています。
教　育　長	それでは、議案第３０号につきましては原案の通り可決してよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり） 議案第３０号　令和８年度日田市一般会計補正予算教育費については、原案の通り可決されました。 次に議案第３１号について説明をお願いします。
社会教育課長	議案第３１号　日田市大山文化センター運営委員会委員の委嘱についてでございます。 本議案は、委員に異動が生じたことに伴いまして、日田市大山文化センターの設置及び管理に関する条例第７条の規定に基づき

	まして、新たに委員を委嘱するものでございます。 　後任の委員につきましては、大分大山町農業協同組合所属の靏野剛氏で、任期につきましては、令和８年９月１日から令和１０年５月３１日までございます。 　３ページには根拠となる規定の抜粋並びに選任前の委員の名簿を掲載しておりまして、網掛けをしている箇所が今回変更となる方でございます。
教　育　長	ただ今説明のありました議案第３１号につきまして、ご質疑等はございませんでしょうか。 　議案第３１号につきましては原案の通り可決してよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり。） 　議案第３１号　日田市大山文化センター運営委員会委員の委嘱については原案の通り可決されました。 　次に議案第３２号について説明をお願いします。
博　物　館　長	議案第３２号　日田市立博物館協議会委員の任命についてでございます。 　本案は、委員に異動が生じたことにより、日田市立博物館条例第８条第１項の規定に基づき、後任の委員を任命するものでございます。 　議案集６ページの現行の委員名簿をご覧ください。 　名簿の８番、科学の分野の委員につきまして、このたび、ひた少年少女発明倶楽部協議会の会長が変更となりましたので、それに合わせて、新たに会長となりました萩原伸春氏が後任となります。 　任期は日田市立博物館条例第８条第２項の規定により、前任者の在任期間となりますことから、令和９年３月３１日までございます。 　なお、５ページに根拠となります博物館法及び日田市立博物館条例を掲載しております。
教　育　長	ただ今説明のありました議案第３２号につきまして、ご質疑等はございませんでしょうか。 　議案第３２号につきまして原案の通り可決してよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり） 　議案第３２号　日田市立博物館協議会委員の任命については原案の通り可決されました。 　次に、報告第１２号について説明をお願いします。

学校教育課長	報告第１２号　令和８年度全国学力・学習状況調査結果について及び報告第１３号　令和８年度大分県学力定着状況調査結果についてでございます。 ２つの報告案件につきましては、傾向が共通していること、また、今後の取組が共通しているものでございますので、一括して報告させていただきます。 まず、報告第１２号です。調査の概要ですが本年度の全国調査は４月２０日から５月２９日にかけて実施しております。 調査期間が長く設けられておりますのは、中学校３年生の英語において話すことに関する調査を行うため、タブレットによる調査を行うこととなっており、ネットワークの負荷軽減等の理由により全国で分散して実施されたことによるものです。 調査の対象学年は、市内小学校６年生４５７人と、市内中学校３年生４６３人となっております。 調査の内容につきましてはご覧のような教科に加えて、質問調査を行っております。 具体的な内容につきましては、(1)にありますが、教科の学習については、知識と活用一体的に問う問題、質問調査につきましては、学習意欲、学習方法学習環境、生活の諸側面に関するアンケート調査となっております。 この後説明していく際の要望についてでございますが、正答率というのは、全設問に対して、児童生徒が正答した割合、平均点というような、意味合いをイメージしていただければよろしいかと思います。 中学校３年生の英語については、問題数や難易度はそろえているものの、調査問題の内容が異なるため、結果についても、正答率ではなく、ＩＲＴスコアという形で表示されております。 それから全国比というのは、全国の平均正答率を１００と見たときの日田市の割合であり、この全国比で１００が全国平均というような見方をしていただければよろしいかと思います。 それでは、下段の結果の概要でございます。ご覧の通り小学校６年生、中学校３年生について、いずれも全国、県の正答率を下回る結果となっております。 ２ページのグラフで少し経年でもご説明いたします。小学校６年生、中学校３年生の過去５年間の平均正答率の全国比の推移を載せております。 小学校６年生につきましては、昨年度やや持ち直したものの、今年度は下降に転じております。 中学校に関しては全国１００には届かず、数学はかなり厳しい

	状況にあります。同じく厳しい英語については、令和５年度より改善傾向は見られましたが、数学同様に非常に厳しい定着状況となっております。 　３ページをお願いいたします。令和８年度、現在の中学校３年生について、小学校６年生から結果の推移を分析したものでございますが、一番上としては全国調査でありますので、偏差値ではなく、全国比で表しております。 　上下で挟んだ３つについては、市の調査、県の調査を並べておりますので、偏差値で示しております。 　網掛けが全国平均以上となります。 　この学年は、一番上の小学校６年生の調査でも、全国を下回る傾向でした。 　算数、数学と英語に関しては、この調査において１度も全国並みになったことがないというような学年です。 　これまでは、学年が上がるにつれて正答率が下降する傾向が強く見られました。小学校ではある程度全国並み、中学校で下がってくるという傾向でありましたが、最近は小学校の段階でも、全国平均を下回る傾向が現れ始め、中学校でリカバリーができないような傾向が見られるところであります。 　４ページをお願いします。児童生徒のアンケート調査で、色つけ部分が全国値より５ポイント以上上回っている特筆すべき箇所、逆に太枠部分が全国値より５ポイント以上下回っている箇所を示しております。 　⑴の１つ目の自尊意識等に関する質問で、小学校６年生は、将来の夢や目標に対して、全国よりも肯定的な回答が高いところですが、小学校６年生、中学校３年生ともに、自己肯定感や学校に行くのが楽しいと回答する割合が低くなっているのが気になるところです。 　また、⑴の２つ目の基本的な生活習慣等に関する調査で、幸せな気持ちになると回答した小中学生の割合が全国よりも低いことは、やはり学校が楽しいと関連しているとも捉えております。 　社会に対する意識地域との関わりですが、「地域や社会を良くするために、何かしてみたいと思いますか」に対する数値は、常に県や全国を上回っていたのですが、今年度の中学校３年生に関しては、県と全国を下回るというような結果でした。 　４ページ下段から５ページは、教科の学習に関する意欲等の回答状況ですが、小学校６年生は国語、算数、英語について、教科の勉強が好きがわかるなどの質問に対して、全国を上回る傾向が見られます。

	一方で、中学校３年生は教科の愛好度、理解度に関する質問項目で、国語は良好な傾向でありましたが、数学、英語については全国を下回る状況でした。 ５ページ下段の授業改善についてでございますが、中学校で、本市の回答結果に太枠が全国と５ポイント以上の開きが見られた項目が３つあるということは、やはり中学校における授業改善は、課題であると捉えられるデータであります。 このような中、授業改善の成果があらわれているのは、国語や算数、数学の最後の質問で、いわゆる最後まで書こうと努力をしたと回答する児童生徒の割合は、県や全国よりも高いというところです。このようなところは、授業で粘り強く考えさせる、書かせるという、成果が出ていると捉えています。 同じく６ページから７ページにかけて、クロス集計についてです。このクロス集計は教科の正答率と、この質問調査、生活の様子との関連を調べたものです。 例えば、６ページ上段の表、①朝食を食べることと、平均正答率の関係ですが、小中学校ともに毎日食べていると回答した児童生徒は、食べていない、時々食べるといった児童生徒に比べ、平均正答率が高いという傾向が毎年変わらずあります。 ７ページですが、１日当たりの学習時間と平均正答率の関係においては、小学校６年生では、国語は１時間以上２時間未満。 算数は３時間以上と回答した児童。中学校３年生では、２時間以上３時間未満と回答した生徒ほど正答率が高くなる傾向でした。家庭学習時間の目安の１つと、特に中学校については捉えられるものであります。 ちなみにその表の下には、平日の家庭学習時間についての質問をつけていますが、１時間未満の割合が小中学生ともに高い傾向です。 特に中学校３年生については、県や全国と比較して、平日１時間未満の学習時間の割合は、約半数で非常に多い傾向です。大分県は２５.９％約で四分の１程度です。 基本的な生活習慣の確立や家庭学習時間の向上には、家庭との連携を一層強める必要があるということを示すデータであります。 ８ページ以降の現状と分析については、これまで報告したことは主に記載しております。 それから、健聴者でもこの後報告しますが、同様の傾向がございますので、９ページ１０ページの今後の取り組みは、後程まとめて報告をさせていただきます。

	特に１０ページのチーム日田で取り組む学力向上対策については、後程使います。 続いて、報告第１３号　令和８年度大分県学力定着状況調査について報告いたします。 １ページお願いします。調査の概要ですが今年度は４月１６日に実施し、調査対象学年は、市内小学校の５年生４４２人、市内中学校の２年生４７１人となっております。 内容につきましては教科の学習到達度調査がご覧のような教科で全国調査同様、質問調査も行われております。 用語の説明ですが、県調査は偏差値で示しておりますので概ね５０であれば全国並みとご認識ください。 調査結果につきまして、まず５年生ですが、ご覧のように国語、算数、理科、教科の全体で見れば、ほぼ全国と同程度となっておりますが、これは年々数値が下降しております。定着状況は改善されておりません。 中学校２年生です。すべての教科でも全国を下回る結果となっております。 ２ページをお願いします。小学校５年生、中学校２年生の過去５年間の偏差値の推移です。毎年度小学校は安定した傾向が続いておりましたが、今年度も下降傾向、これまで下降してきたこの傾向が止められなかったという状況であります。 中学校２年生も下降傾向であり、全国と比較してすべての教科で偏差値５０を下回る状況となっております。学力定着状況としては全国と同様に、非常に厳しい状況であると捉えています。 ３ページをお願いします。質問調査の結果です。色つきが全国値以上となっております。 まず、上段の自己認識、社会性等についてです。頑張ったことを先生が認めてくれてうれしかった。将来の夢や目標を持っている地域行事への参加の質問項目において、小５、中２ともに全国平均を超えており、昨年度と比較して良好な状況です。 同じ表の一番下の項目、クラスの人がふざけたり、おしゃべりをして授業に集中できないことがありますか、という問いをご覧ください。 これは数値が高いほど良好な状況でありますが、小学校は昨年度の３９.９％に対して４７.５％、中学校は昨年度の４２.２％に対して４９.２％。それぞれ改善の傾向は見られます。 次に、下段の生活習慣、家庭での学習習慣に関する調査です特に小学校５年生は、朝食を食べる等の生活習慣や家庭での学習習慣、ゲームやインターネットの使用時間等で全国よりも課題が見

	える状況となっております。 　表の下から２番目の質問をご覧ください。テレビや動画、インターネットでのゲームが２時間未満の割合が、中学校２年生は１１.４％となっており、わかりやすく言うと、９割程度は、平日に２時間以上、ゲームやインターネット等をしているという結果であります。 　一番下の平日１日の勉強時間ですが、３０分未満或いは全くしない割合が、小学校５年生は約半数、中学校２年生でも４割以上になることがわかります。１日のスマホやゲームをする時間の長さと、家庭での学習時間の少なさとはやはり関連していると捉えております。メディアとのつき合い方、メディアコントロール等についても、今後は家庭学習の鍵となっていく。やはり家庭との連携というものがここでも重要であるということは認識しているところです。 　４ページをお願いします。上段の表は、教科に関することが好きかまたはわかっているかを聞いたものです。 　昨年度は、中学校で全国を上回った項目が１項目でありました。これが４項目に増えているということ。それから、授業での学習状況。下段になりますが、まとめや振り返りのある授業、単元目標を意識した授業等において、全国平均を上回る結果となりました。 　市教委としましては、評価の愛好度、理解度を高めるために、わかった、できたを実感できる授業改善を目指してきましたので、これらについては学校の努力により、一定の成果があったと認識しています。 　しかし、５ページ、６ページに示しております通り、学習定着状況、いわゆる点数の学力では課題が多く見られています。児童生徒の教科に対する愛好度や理解度は向上しても、実際の点数には結びついていないというのが、現在の日田市の状況です。 そこで、全国、県学力調査の結果を踏まえた今後の対策について、別紙２の１０ページでご説明いたします。 　学力の現状としましては、これまでご説明しました通り、児童生徒の学習意欲の向上等に向けた事業改善は一定の成果が見られたものの、学力定着状況、いわゆる正答率については、改善が見られない状況です。このような状況を踏まえて、市教委は、４つの対策が必要だと考えております。 　１つ目、市全体で知識・技能の定着を図る取組を徹底することです。 　２つ目、各学校では、「わかる、できたを味わわせる」授業か

	ら「力をつける」授業へのステップアップが必要であるということです。 ３つ目、児童生徒の進路や将来に対する意識の向上であります。 ４つ目、家庭と連携した学力向上、以上の４つの対策が必要であると考えました。 具体的な取組としましては、市教委として３点ございます。 １点目は、市統一ドリルを定期的に実施し、市全体の定着状況の把握を行い、補充問題まで市全体で統一して行うというものです。ＡＩドリルを現在導入しておりまして、これを活用することで、採点や集計の負担を軽減しながらも、知識、技能の定着状況の改善を図ることを目指していきます。これをまず日田市全体でやるということが今回の重点的な取組となります。 ２点目は積極的な授業公開により、すぐれた授業を見て学ぶ機会を充実させる等、教職員研修の充実を図るものです。 ３点目は、知識技能の市全体のドリルをやった後、いわゆる困りを抱えている学校があれば、学校訪問であるとか学習教材支援の充実をすることによって、伴走支援を行っていくということが挙げられます。 学校の取組の３点は、すでに校長会にて指示を出しているところです。 １点目は、これまでも行っているつけたい力を明確にした授業の実践。 ２点目が、重点的な取組としまして、授業の終わりの場面で本当に今日つけたい、つけたかった力が身についているのかを確実に把握していきましょうという取組です。 これは授業の最後に、練習問題やミニテスト、振り返りを書かせることで、その時間に学習内容がどれだけ定着しているのかを、授業で確実に行う取組であり、力をつける事業には欠かせないものと捉えております。 ３点目は、担任や教科担当のみに任せず、教職員全員で個別補充時間、補充学習の充実を行うということです。各学校はそれぞれ事項の具体的な取組を夏季休業中に決定しておりますので、これらを組織的に実行していくということになります。 また、市教委と学校で協力して行う取組としては、児童生徒については、キャリア教育の充実です。これは日田市の場合は、中学校の生徒が高校入試はもう１つの目標にはなりません。 高校入試によって勉強を促すというような状況にはないということも踏まえて、ではどうやってモチベーション上げていくのか

	というところも踏まえて、もうちょっと先の、高校に入った後のこと等も含めたキャリア教育を充実させていくことが必要であること。それから実際の自分たちの状況を客観的に知って、学習時間が少ないということなどを、教員と児童生徒で共有することで、この後どういう取組につなげていくのか、一緒に考えるような集会を持つということも計画しております。 家庭につきましては、現在、学力向上に向けた学校運営協議会が行われております。そこに資料をもって指導主事が入り、家庭との連携で重要になるような質問調査の数値、日田市の全国よりもかなり開きがあるようなものについて、実際に紹介しながら、参加した保護者の方々に知らせていく。 そして、できれば、すべての保護者に何か、市教委からのお知らせというようなもので、そういった質問調査の結果から見える状況が、お知らせできたらと考えているところであります。 日田市の１２月調査が１２月１７日にございます。まずは、知識技能の定着状況の改善に向けた取組を検証改善し、結果をしっかりと捉えていきたいと思っているところです。 報告については以上でございます。
教　育　長	ただ今の報告につきまして、ご質疑等はございませんでしょうか。
山　崎　委　員	改めて日田市の学力調査を見たときに、この数年、県内１８市町村内で最下位を争っています。この結果はどうしてだろうと思うのです。 いろいろな原因があると思うのですが、先程、学校教育課長が分析された通りだと思いますが、もちろん教員だけの問題ではない、学校だけの問題ではないわけです。私たちは、本当に真剣に考えていかなければなりません。 そのようなことから、提案したいのは、総合的に考えていく必要があるということです。ただ今、私は、総合的という言葉を使いましたが、家庭教育の問題であれば福祉も絡むだろうし、お父さんお母さんの働き方であれば労働行政も絡むだろうし、総合的に絡めて考えていく必要があります。 なぜなら、日田市の子ども達の能力が低いわけではないと思います。やはり、伸ばし方が間違っている。どのようなところで間違っているのだろうかと、私たち大人が真剣に考えていかなければなりません。ただし、このデータを見ても絶対的に勉強量が少ないです。勉強して覚えなくてはならない。これは必要条件で

	す。これらのことをどのように考えていくかは、私たち大人が真剣に考えていくべきだと思います。 　もっと言うと、やはり緊張感が足りないのではないでしょうか。個人的なことで大変申し訳ないのですが、この学力テストが終了したときに、私は大分市在住ですから大分市の教員の１０数名と、また、日田市の教員１０数名から聞き取りをさせていただきました。 　そこで感じたことは、やはり緊張感が足りないとの印象を受けました。そこは緊張感を持ってやっていかなければならない。覚えることが教育ではない。その通りだと思いますが、しかし、必要条件として絶対大事なことです。そこはしっかりと認識していきたいなと思います。
学校教育課長	私たちも、アレもコレもといろいろ手をつけても、学校の中でそれがなかなか徹底できない状況があると思います。市全体で取組ことを決めて、知識技能にまず特化していく。覚える、計算ができるなど、重要なものはしっかりと身につけて、その上で、応用、いわゆる活用問題等に当たっていくというような順番で考えていきたいと思っております。まずは、１２月までの期間を１つのスパンとして、知識技能の向上に向けて、すべての学校で行う。これを強く進めていきたいと考えているところです。
古田委員	毎年この学力テストの結果報告を聞くと、毎回、シュンとなって終わります。学校教育課で検証して、学校の先生たちもいろいろと取り組んでいると思いますが、年々学力が低下していく現状です。先程、山崎委員から発言があったように１８位の最下位です。 　保護者の立場からすれば、もっとこの事実を家庭と共有して、いかに日田市の現状がまずいかということをもっと知らせたほうがよいと思います。その他にも、共働き家庭が多く、親がとにかく忙しく、時間がない家庭では、子どもがずっとスマートフォンでゲームをしている。これは日田市に限ることではないと思います。 　そのような現状で、「自立した学習を」と小学生に言うのは無理に近いと思います。それであれば、どのようにしたらよいのか、私自身も答えを持っているわけでないため本当に悩みます。 　しかし、英語が苦手という部分に関しては、今はＳＮＳとかでもこれだけ世界が近くなっていますので、例えば、学校での朝礼

	や給食の時間のときに音楽をかけたりする。校内放送を全部英語にしてみるとか、身近なことから、楽しく英語を学ぶのもよいかもしれません。 　とにかく、現状を共有して、家庭も一緒になってやらないと、学校の先生だけの力では本当に無理だと私も思います。
学校教育課長	家庭との共有につきましては、ただ今、市教委からのお知らせができないか。各学校からではなく、市教委から発信できないか考えております。 　その中に、今の厳しい状況を入れるか、ただ今、検討しているところであります。 　県内の順位などは、年度で若干の変動はありますが、中学校は特に厳しい状況であるのは間違いありません。 　順位については、現在、県は公表していませんので、書き方としてはかなり厳しい状況が伝わるように書く必要があると思っております。 　なお、結果は、学校ごとに、保護者には公開をしております。 　かなり厳しい状況だと、危機感として伝わるような表現にしなければならないと考えているところであります。
教育長	令和５年度末の市議会でも、ある議員から、学校が荒れている状況もありましたので、中学生の問題行動、規範意識の低下、学力低下の問題について質問をいただきました。 　また、令和６年度にも同じ議員から、その後どうですかという質問をいただきました。 　令和７年度は質問がありませんでした。５年度から６年度について、今後の取組をきちんとお答えしましたので、７年度は見守っていただいたと思っています。学校の荒れている問題は随分改善されていますが、私たちも点数だけではなく、まず質問調査で、「好き」「わかる」という回答が増えてこない限り、点数的なものも上がってこないだろうと考え、そこに力を注いできましたが、数値に反映されず、逆に低下していることについては、反省も含めて大きな課題として捉えています。 　従って、改善に向けた市教委の具体的な取組は、本来学校で行うべきこともあるのかもしれませんが、市全体で統一したドリルをやってみて、できる、できないところをきちんと市全体で把握して、学校にそれをしっかり返して、どんなやり方をするのかというところをしっかりと見取っていく必要があります。 　このような取組が抜けていたのではないか、との反省点とし

	て、現場の先生方と同じ足並みで取り組んでいかなければならないと思っています。 ただし、押し付けたり、悲壮感漂うような取組では、うまくいくとは思っておりません。これからは、やはり学校の中にも入り、しっかり現場を見ながら、また、県教委にも指導主事がいますので、他の自治体と比較してもらうことも必要かと思います。そのようなカも借りて、学校には授業公開でどんどん入ってもらおうかと思っています。 今後の学校訪問の際にも、そのような視点も持って授業を見ていただければと思っております。
古　田　委　員	おそらく、小学校だとできる子どもはできます。 だから、できない子どもたちのフォローアップ、ボトムアップをするだけで、グーッと伸びるように思います。 学校訪問に参加して授業を見るかぎり、本当にみなさん楽しそうに勉強をしていましたし、意欲はすごくあるのだと思いますが、テストになると結果が出ていませんので、とてももどかしく感じています。
学校教育課長	小学校であっても、やはり学習が苦手な子が過去に比べて増え、差が大きくなっている状況です。従って、一斉授業だけではなかなか学習の定着が厳しい状況です。 同じような授業をして、十分に理解して退屈になる子。ちょうどいい子。全く授業がわからない子。これらの層がかなり広がってきていることから、以前から中学校では習熟度別に分けてやっていたのですが、小学校でも理解の定着状況に応じた学習のコース分けも必要になってきている状況かもしれません。 実際に、算数の授業の最後の時間は、何時間かコースで行なう取組も今少しずつ進められているところです。
山　崎　委　員	ただ今の古田委員の発言のように、学力はフタコブラクダと言いましょうか、９５点の子や９０点の子に１００点を取らせるのは難しいことです。 それよりも２０点の子を５０点に上げることが大事です。結局この層が上がらないと日田の学力の底上げができない。順位が上がらないのです。 ですから、少し学力が劣る子どもたちをどのようにして上げていくのかということは、学校教育課でよくご存じだと思いますので、そのような視点でぜひ取り組んでいただきたいです。

教　育　長	正答率だけで見ると、５段階にしてみると、やはり日田がどうしても３から４より、３から２のところが非常に人数が多いです。中学校で１年間を過ごした段階でその辺りの層が増えてきます。 山崎委員から発言があったように、中学校１年生の段階などで、勉強量が必要ならば勉強量は必要だと。教職員の働き方改革の中で授業が減ったり、なるべく負担がないようにしたりして進めてきましたが、ひょっとすると、減らしてはいけない部分を減らしているのかもしれないという認識のもとで、学校の取組を見直すことも必要ではないかと思います。 学校は、子どもたちの力を信じて、一緒に考える存在だと思います。そして、この問題は学校だけでなく、家庭で一緒にといいますか、そこを子どもと一緒に考えていくことが、この日田市にとって大事なことかもしれません。
佐々木委員	全く勉強しない子どもさんがいますが、それは宿題もしていないのでしょうか。
学校教育課長	先程ご説明したのは日田市全体の集約でありますので、全くしない子どものそれぞれの実態までは把握できておりませんが、宿題が出されていれば、大概の子どもは家庭で何かしらやっていると思いますが、宿題が出ていない、もしくは出ていてもしないという可能性はあると思います。 そこで、現在、ある学校では、家庭に帰ると真剣に学習をしないので、放課後に少し学校に残って、宿題をしたい子どもはやっていいよというような取組をしています。 もしかすると、そういった子どもは、家庭では全くしないとの回答になっているかもしれませんが、いずれにせよ、各委員がおっしゃるように、このデータのとおり日田市の子どもたちの学校外での勉強は不十分であるというような認識です。
佐々木委員	塾に通う子どもは、それも学習時間に入れているのかもしれないし、入れていないのかもしれません。詳細はわからないと思いますが、知り合いのお子さんが１日中ずっとゲームをしている。朝までやっているので、学校に行かない。そのような子どもが、兄弟でいると聞いています。ゲームの時間がすごく長くてこれが影響していると思われます。 中学校の先生と昔、話をしたときに、「何かやりたいとか目標がある子どもは自然と勉強するんだ」と言っていました。

	今、日田高校では宿題を減らしています。それで少し学力が低下しています。 やはり、将来何をするか、どういうところに行きたいのか。そのようなことが非常に大事で、そのためにはどういう学校に行って、何をするか、ということを考えるのは非常に大事であると思います。
教　育　長	やはり、中長期的な展望で、キャリア教育など、内発的な動機付けがすごく大事になってくると思います。しかし、幾分少し腰が引けた部分があるのではとの見方をしたいところがあり、目の前のことを、中学生の本分は、授業が１日の大半を占めていますので、学校の先生も子どもも、知らないことを知る楽しさ、できなかったことができるようになる楽しさなどを味わうことができれば、また、みんな一緒に同じ勉強をして、みんなでわかるようになっていこうという雰囲気がある学校、クラスは決して悪くはないと思います。その積み重ねがもっと我々には必要だと思います。 この辺が教員の言葉からも出ているように、日田の学校の空気感が、もっと学びに向かうようにこの２年間でやってきたわけですが、それがその方向に向かっていないとなれば、本当に悲しいことです。一生懸命に言ってきたことが、ただ言っているだけで非常に抽象的であったと、反省しないといけません。もっと具体的に見ていかなければなりません。もう抽象論は必要ないという話です。 県教委とも今そういう話をして、そのように捉えるべきだろうと指摘もいただいておりますので、そのようにやっていきたいと思っております。 そして、連合育友会に説明も必要だと思っていますので、間接的なお知らせではなく、直接的にデータをもって、一緒に考えていただくという方向で考えております。 ご承知のとおり、２５日から２学期が始まって、最初の１週間は緩やかスタートで始まっています。学校には、子どもたちと共有してほしい、学校の中で工夫してくれと言っております。学級担任任せにせず、と学校教育課長からも指示を出しています。学年単位、全校単位で、負の捉え方ではなく、しなければならないという、意識づけをまず投げかけてくれと。そうすると子どもたちがどういう反応をするか。とても期待しています。

木　下　委　員	先程の学校教育課長の説明で、家庭での学習習慣、その中で、インターネットやゲームをしない生徒が、大分県に比べて極めて少ない。そして、それとは逆に、勉強しない生徒は、大分県より極めて多いです。これが中学２年生の学力低下の要因になっているのではと思います。 先程、山崎委員から緊張感がないとのお話がありましたが、私は、家庭、保護者に緊張感がないのではと思っています。よって、家庭の教育力を高めていくことが、これから大事ではないかと思いました。
教　育　長	教育委員会ですから、学校教育だけではなく、社会教育なども含めて、総合行政とはそういうことだろうと思います。いろんな角度から、いろんなお知恵も借りながら、例えば連合育友会の研修や会議の場で、そのような議題を組み込んでいただく。そのような提案もできればと思っています。 それではこの報告はここまでといたします。多数のご意見をありがとうございました。 次に、報告第１４号について説明をお願いします。
淡窓図書館長	報告第１４号　日田市立淡窓図書館窓口業務等委託業者の選定についてでございます。 初めに、７ページをお願いいたします。 現在の淡窓図書館窓口業務等の委託期間が令和５年１０月１日から令和８年９月３０日までとなっていることから、本年１０月１日以降の業務について、地方自治法施行令の規定に基づき随意契約を締結するため、本業務に関する提案を募り、最もすぐれた者と契約を締結することを目的に、公募型プロポーザル方式により委託業者の選定を実施したものでございます。 内容については、司書有資格者の確実な確保を図り、淡窓図書館の利用者サービスの一層の向上を目的として、窓口業務等を民間の専門業者に委託するものでございます。 委託期間は、令和８年１０月１日から令和１１年９月３０日までの３年間で、予算は３年間合計で１億２１９６万８０００円。 委託内容は、本の貸し出し、返却、レファレンス等のカウンター業務などでございます。 業者選考は、衣笠教育次長を委員長とし、委員７名で構成する日田市立淡窓図書館窓口業務等委託業者選定委員会を設置し、選考を行いました。 ７月１４日に開催した選定委員会において、企画提案書を提出

	した１者によるプレゼンテーションに基づき、ヒアリング審査会を実施いたしました。 　窓口業務全般、業務実施体制、利用者サービス向上策などの提案内容について説明を受け、審査した結果、８ページにございます株式会社図書館流通センターを委託候補者として決定いたしました。 　なお、審査評価項目の内容につきましては、９ページから１０ページの通りでございます。 　最優秀者の選定にあたっては、総得点の最も高いものを交渉相手とすることが原則でございますが、今回は参加者が１者のみであったため、１者のみの場合の選定要件を今回の決定基準として適用いたしました。 　当該事業者は、現在の窓口業務の受託事業者であり、実績として、九州管内では、福岡市総合図書館など、大分県内では、大分県立図書館などを受託しております。 　業務委託契約の締結日は令和８年１０月１日を予定しております。 　報告第１４号につきましては以上でございます。
教　育　長	ただいまの報告につきまして何かご質疑等ございませんでしょうか。
山　崎　委　員	このような図書館の窓口業務を行う業者は、全国的にあまりないのでしょうか。
淡窓図書館長	何社かありますけれども、今回は２社からの応募がありましたが、そのうち１社から辞退届があり、実際に審査できたのは１社でございました。
山　崎　委　員	予算について、３年間で約１億２,０００万円とのことですが、１年間で約４,０００万円ぐらいです。この中には消費税が入っているのでしょうか。
淡窓図書館長	消費税込みです。
教　育　次　長	補足しますと、この予算の大半は人件費となります。本件は、窓口業務等の委託となりますので、人件費相当と事務費等が入っており、当然その中では会社の利益が出るようになっていますので、消費税も含まれた金額で積算しております。

山　崎　委　員	消費税は、１億２,０００万円の１０％というわけではないということですか。
淡窓図書館長	そのとおりです。
古　田　委　員	受託候補者である図書館流通センターとは何年ぐらい契約されていますか。
淡窓図書館長	平成２９年から窓口業務委託を開始し、そのときから同社に委託しております。その後、令和２年、令和５年に更新しております。
教　育　次　長	館長からご説明しましたとおり、当初の委託で入った会社が続いて受託しております。やはり、一度受託すると他社が入りにくいようです。それでも、前回までは、この会社以外の会社もプロポーザルに参加してくれていましたが、今回は辞退されました。 行政的には数社で競っていただく中で選考したいところではありますが、比較的、前向きな取組をしていただけている業者でございます。
教　育　長	業者選定委員会（７名）、その下の行に他委員５名との記載がありますが、これは合わせて１２名ということですか。
淡窓図書館長	全員で７名となりますので、委員長である教育次長と県立図書館の室長を除いた５名と言う意味です。
教　育　長	それでは以上で報告を終わりたいと思います。 その他についてお願いします。
教育総務課長	次回の定例教育委員会の日程についてでございます。 ９月期の定例教育委員会は、９月３０日水曜日１４時３０分から勉強会、１５時から定例教育委員会でお願いしたいと思います。
教　育　長	９月期定例教育委員会の日程は、ただ今の説明の通り、９月３０日水曜日ということでございますがよろしいでしょうか。 それではそのようにお願いいたします。 その他、皆様方から何かございませんでしょうか。

佐々木委員	先日、日田市が九州で初めて気温４０度を超えましたが、市内の小中学校の体育館の冷暖房施設を設置する計画はあるのでしょうか。
教育総務課長	現在、実施設計中でございますが、固定式のエアコンを設置する予定の小学校が６校、中学校が４校、計１０校ございます。そのうち、令和９年の夏までに半分ぐらい、令和１０年の夏までに残りの半分ぐらいの学校に、固定式のエアコンを設置する予定です。 その他の学校につきましては、移動式のスポットクーラーを順次準備して、その検証を図りながら設置していきたいと考えております。 なお、移動式のスポットクーラーについては、一昨日に咸宜小と光岡小、今日は三隈中に、来週には東部中に入れて、検証を始めたいと考えております。
教育次長	補足しますと、ただ今ご紹介しました移動式のスポットクーラーは、防災・危機管理課で予算を付けていただき、避難所用として購入しております。ただし、避難所用に限られた用途ではなく、保管する学校で常時使うことを想定して、検証をしていきます。
木下委員	６月に大雨が降りましたが、学校の施設等で今回の補正予算措置をするような被害はなかったようですけれども、今回の大雨による学校の状況について教えていただきますでしょうか。
教育総務課長	市内の学校については、特に大きな被害は起こっておりません。雨漏りについては、風が強かったこともあり、屋根と壁の隙間から雨が入りこんだ学校もありますが、屋根が壊れて雨漏りした学校はございません。
教育長	その他ございませんか。 ないようでございましたら以上で８月定例教育委員会を閉会いたします。 お疲れ様でした。 終了時刻：午後４時１５分